

いの流水俳壇

松尾 満津於 選

「当季雑詠」

松岡 陽子

神燈に映えし緋袴涼新た

(評) 神に仕える未婚の女性を巫女みこという、その女性の立ち振る舞いを詠んだものである。純白の着物に緋の袴姿はまことに清楚な感じを受ける。清澄の季節であるだけに殊更に魅せられるものがある。

植田 紀子

雨筋の光る神域秋の声

(評) 秋の天気は変わり易い、日照りの中でも急に曇り雨が降り出したりする、そんなそらぞらしさが夏の終わりを告げる。日和雨が降ってその雨筋の光っている神域。「明月帰らず碧海に沈み、白雲秋色・蒼梧そうごに満つ」とは中国の「季白の詩」。

川村 愛

見上げれば医院のドアに秋陽照る

(評) 作者は高齢であり、常時医師のアドバイスを必要としているのであろう。秋陽照る見上げるドアは二階であらう、

健康に自信の無さが医院の存在を大きくし、ドアの秋陽が意識の中から遠退いたとき、息災のよろこびを知る。

津田 久美

翻る巫女の袴や今朝の秋

友草 水月

狛犬こまいぬも深呼吸すなり今朝の秋

中野 好子

仁王門くぐり登れば別の秋

小島 良

大吉の手許涼しや結び杉

竹崎 光子

台風のとんとんと小百姓

片岡 包女

太縄で縛り上げたる秋桜

中屋 桜子

垢抜けて今宵農婦は踊りの輪

弘瀬 うき子

草むしり蟲の音色を拾いけり

岡本 とも子

パソコンを知らぬ十指や秋日濃し

間 浩太

つぶて木に当たりて宮の蟬となる

筒井 眉躬
戦没の級友偲ぶ終戦忌

川村 千図子

雨しのぐ大国様の木下闇

大川 節弥

仁淀吹く秋風に老ゆ川漁師

森本 二美子

玉砂利の雨のしづけさちちる蟲

川村 博子

老いてなほ淡き色好き鳳仙花

伊藤 たみ

今朝秋や期するものある如く立つ

渡辺 万利子

敬老の日の案内や彼岸花

楠目 哲郎

大杉の梢末に羽化する揚羽蝶

筒井 文

鈴蟲の命のかぎりをなく夜かな

松尾 満津於

橋のなき道の遠きよ稲の秋

「楢本神社奉納句会作品」

那須 三智子

秋の雨句碑にぬくみの残りけり

鎮西 美緒
缸の緒の赤をぬらしぬ秋の雨

佐々 誠也

あるやなし風にさそわれこぼれ萩

大西 みどり

大国様の小槌を振れば秋の風

東谷 晴男

触れもして秋を急かせる百度石

和泉 修司

秋驟雨酉の女の百度石

大西 昇月

神宿るミカドアゲハを育てし木

森岡 義行

天空の油蟬なく杉木立

宇賀 佳代

驟雨去る神苑の鯉さやかなり

川田 淑子

絵馬堂にしばし秋雨の宿りせん

兼題「行く秋」五句

締切 毎月十五日

投句先

吾北教育事務所
上八川甲2010

☎867-2133

四国山地の雄大な尾根を力走!

第5回

四国のでっぺん
酸欠マラソン大会

県内外から

238名のランナー

9月25日(日)に、いの町寺川・町道瓶ヶ森線で、マラソン大会が実施されました。

